



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

本年も感染症の流行状況を毎月お知らせして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

～インフルエンザについて～

昨年の夏からずっと続いているインフルエンザですが、1月10日東京都の発表によると、依然として注意報レベルが続いています。現在流行している株は、主流がA型のAH3亜型で、次いでAH1pdm09、B型が少数混在しています。集団事例報告数と入院患者報告数は、11月上旬に一度やや減少したものの、11月下旬から再び増加しています。流行初期の東京都の予測では13週間ほど続くということでしたが、それ以上にダラダラと続いています。新学期が始まり、また広がりつつあります。

～溶連菌・咽頭アデノウイルス（プール熱）について～

昨年秋から冬にかけて溶連菌とアデノウイルスが猛威をふるいました。東京都感染症情報センターの流行状況を見ますと、冬休みに入ったためか年末には急激に報告数が減少しました。年が明けて新学期が始まりましたので、これからまた増えてくるかもしれません。

～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

厚労省の発表によると1月7日の時点で新型コロナウイルスは7週連続増加傾向、まだまだ寒くなるこの時期に注意を呼びかけています。東京都で現在流行している株（主流がEG.5, JN.1, BA.2.86）は特に重症者が急増しているという報告は出ていません。世界で最も多く検出数が増加しているのがJN.1ですが、この変異は高い免疫回避能力を確保していると報告されています。つまり、ウイルス自身が約2週間に1回どんどん変異する事により、人間が以前に獲得した免疫を回避する能力を身につけているという事です。

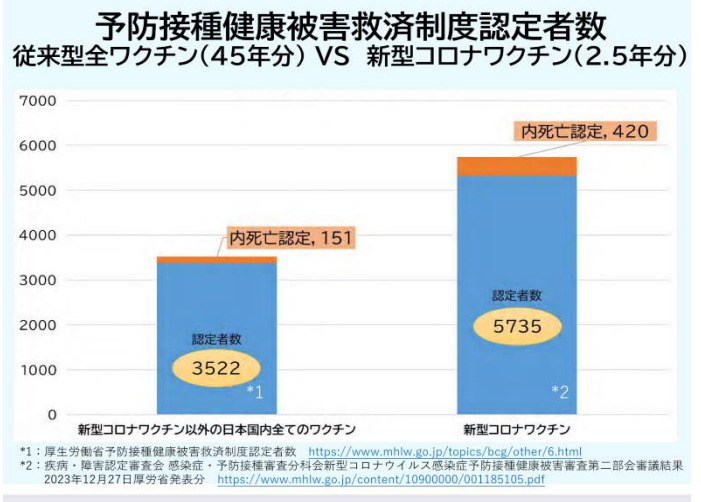
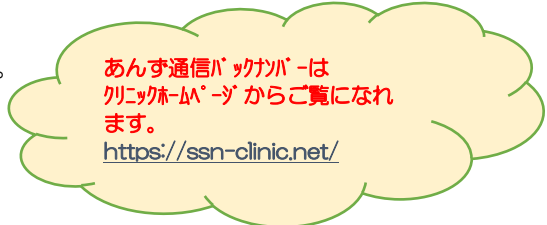
令和3年に始まった新型コロナワクチンですが、令和6年1月7日時点で東京都全人口に占める接種状況は、1回目80.1%、2回目79.1%、3回目65.9%、4回目42.4%、5回目25.8%、6回目16.3%、7回目接種10.7%です。首相官邸より1月9日に発表された情報では、日本全国年代別で5～11歳では3回接種約10%、生後6ヶ月～4歳では3回接種約3%となっています。

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省の新型コロナワクチン副反応疑い報告によると、昨年10月までの発表で、死亡者2122人、重篤者8750人、副反応疑い総数36556件と報告されています。令和6年1月11日に一般社団法人ワクチン問題研究会（代表理事：京都大学名誉教授、福島雅典氏）が厚労省で開催した記者会見では、新型コロナワクチン接種による健康被害について「驚愕する事実」を報告しました。これまで、世界で数千に上る論文が「ワクチン接種後の副作用」として報告されていると。記者会見に先立ち、武見敬三厚生労働大臣に「新型コロナワクチン接種による健康被害者の速やかな救済に関する要望書」を提出した事を報告しました。

表：12月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌感染症	291
2	インフルエンザA型	278
3	胃腸炎(105例ノ1含む)	148
4	咽頭アデノウイルス(プール熱)	66
5	インフルエンザB型	35
6	新型コロナウイルス	8
7	ヘルパンギーナ・手足口病	8
8	突発性発疹	3
8	おたふくかぜ	3
9	水ぼうそう	2



新型コロナワクチン接種後の死亡認定件数

